



校長室だより～湘南の空～

第3号

令和4年1月31日

まん延防止等重点措置の中、生徒の皆さんは、十分な感染症対策を講じて過ごしていることと思う。今年度も残すところ2か月、日々の勉強、学校行事はもちろん、部活動や同好会の活躍が目覚ましかった。湘南生がますます輝いている印象だ。皆さんの今後の挑戦も楽しみにしている。

世界平和に貢献する

本校52回生の井上慎一さんが立ち上げたPeach（2011年～）という航空会社がある。井上さんはもともと、全日空（ANA）の人で、全日空の偉い人から、「うちの会社も格安航空会社をやることになったから、お前が社長やれ」と言われた時に、断ったそうだが、よくよく考えてみると、「格安航空で値段がどんどん下がれば、いろんなアジア中の若い人たちが、どんどん外国に出かけられるようになる。そうすると、それぞれの国には素晴らしい文化や素晴らしい人たちがいるということを実体験できるようになるので、必ず世界平和に貢献する。」と思い直して引き受けたという。（ログミーBiz「安いだけのエアライン」を「戦争をなくす事業」へ）

その後、沖縄を「日本の南の玄関口」にするという気概を持ったPeachはプロ卓球チーム「琉球アスティーダ」のスポンサーになり、日本実業団リーグ平成29年度後期ホームマッチの観客動員数を1位にし、また、電車のように気軽に利用してもらおうと「空飛ぶ電車」を目指し日本第3位の航空会社に成長した。

目標を高い理念に結び付け、貫くことの大切さが伝わってくる。

現在、井上さんは、全日空の代表取締役専務執行役員として手腕を発揮し、注目を集めている。

なお、井上さんは本校卓球部のOBであり、「琉球アスティーダ」につながった。このことは卓球専門メディア「Rallys」で取り上げられている。

5年ほど前、湘南高校卓球部同窓会（湘卓会）でお話を伺ったが、卓球を愛する、実に気さくで頼もしい人物だ。

こういう社会をつくりたいというイメージ

隈研吾という世界的な建築家を知っているだろうか。隈研吾は、1964年の東京オリンピック時に見た建築家丹下健三設計の代々木競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指した。これまで国内外で数多くの建築を手掛け、奇しくも2021年の東京オリンピックのメイン会場となった国立競技場の設計を担当した。

隈研吾は建築家の使命について次のように述べている。「建築家もアーティストも、こういう社会をつくりたいというイメージがなきゃいけないと思うんですね。それをどう表現し伝えるのか。建築家の場合は、こういう家に皆が住む社会になって欲しい、皆がこういうワーキングスペースで働く社会になって欲しいなど、メッセージをストレートに形にすることができる。その意味では直接、社会に働きかけるポテンシャルがあるようですが、こんなところで働きたくない、こんなところには住みたくないという人に出会ったら、自分の社会像、未来像に『ぼろ』が出てしまう。…自分と違う価値観や美意識をバーンとぶつけられたときは、一瞬たじろぎますが、異なる価値観、美意識にちょっと挑戦してみようかなと思うんですよ。違いやずれは、自分が変わるチャンスだと受け止めるようにしています。」（「近藤誠一全集Ⅰ」より）

まず、こういう社会をつくりたいというイメージを持つところから初めて、異なる価値観を理解し受け止めながら自分を変えていく。この考え方は、多くの分野に通じると思う。

生徒の皆さんには、未来にあるべき社会をイメージしながら、やりたいことに全力を尽くしていただきたい。

余談になるが隈研吾建築都市設計事務所が設計を手掛けた建築は、歌舞伎座、根津美術館、浅草文化観光センター、湯河原駅前広場など多岐にわたり、その土地の自然の材料を使い、自然にマッチする風通しの良いデザインで知られている。私がこれらの建物を訪れた際には「建物が自分とつながっている」という不思議な感覚——胎児になったような気分——を得た。海外では、スコットランド初のデザインミュージアム V&A Dundee などがある。

著者の近藤誠一さん（39回）は東京大学教養学部を経て外務省に入省、駐デンマーク大使、文化庁長官を歴任し、現在は近藤文化・外交研究所代表を務めている。

自分の国を大切にすることをベースに本当の思いやりを持つ

「近藤誠一全集Ⅰ」には日本舞踊家 宇津木あんら との対談も載っている。

彼女は津田塾大学多文化・国際協力学科で日本舞踊を教える際に次の事を伝えるという。「自分の国の文化を知ること、ほかのすべての国の人たちも、自分たちと同じように大事な文化を持っていることに思いが至り、自分たちが自分の国の文化を素晴らしいと思っているように、ほかの国の人たちもそう思っている、だから自分の国を大切にすることをベースに本当の思いやりを持つてほしい。」私たちが学ぶ目的は「思いやり」を持つことになる。

生徒の皆さんには、学ぶ意味を自ら創出し、興味のある分野を自由に探究してほしい。